

管理職からの メッセージ Message



専門と業務との関わり

国立国会図書館の特徴の一つに、職員のバックグラウンドの多様性があります。採用試験の専門科目は、社会科学系、人文系、理科系から選択できます。職員は、専門的な知識や考え方をいかしつつ、専門にこだわりすぎない柔軟さを持って、業務に取り組んでいます。個人的な経験ですが、理科系出身の私のお話をしましょう。

当館の所蔵する膨大な図書や雑誌には当然科学技術関係のものも含まれますから、司書部門で働いていた時期には、専門知識を直接いかすことのできる場面もありました。一方、調査及び立法審査局に異動し、国会向けの調査を行うようになってからは、知識そのものよりもむしろ、培ってきた客観的な物の見方や科学的な思考法が、情報の収集・整理・分析や調査報告書作成の際の大きなアドバンテージになったと感じます。また、調査の過程では法令の条文を読み解かなければならない場面もあり、法学専攻ではない身にとっては努力が必要だったのですが、苦痛ではありませんでした。他の理科系出身者を見ても思うのですが、法令はいわば理屈で書かれているので理科系と相性が良いのかもしれない。管理職になってからも、データを収集して分析するスキルは業務改善等に役立っています。



国会議員等を対象とした政策セミナー

印象に残る仕事

調査及び立法審査局では、議員からの依頼に基づく調査のほか、今後国政上の課題となりそうなテーマについての自発的な「予測調査」を行っています。予測調査には個人で行うものと局横断的なプロジェクトとして行うものがありますが、後者について特に印象に残る仕事があります。

一つは、平成14年度に行われた主要国における緊急事態への対処に関する調査の一環として、北欧等の緊急時の食料供給確保策について現地調査を実施したことです。当時、外国の当該政策についての情報は多くなく、「何がわかればこの問題がわかったと言えるのか」を考え抜く必要があるなど準備に苦労しましたが、この経験は調査員としての私の強くなりました。調査結果は冊子にまとめ、平成16年には、衆議院農林水産委員会に参考人として招致され、内容の一部を御説明しました。

もう一つは、平成22年度に初代の科学技術室長となり、「科学技術に関する調査プロジェクト」を管理・運営したことです。当館の調査員と外部の有識者や専門機関が連携するこれまでにない方式の調査であり、特有の難しさがありましたが、改善すべき点は次のサイクルに反映させ、このプロジェクトのこのようなものを作っていました。

メッセージ

当館には、このほか電子図書館関係やシステム関係の仕事もあります。理科系に限らず専門的な勉強を頑張った人ほど、当館への就職には異業種への転職のようなハードルの高さを感じるかもしれません。しかし、当館で新たな分野に取り組む中で自分の強みを発揮できることもあるのです。ぜひ当館を選択肢として検討してください。

調査及び立法審査局国会レファレンス課 課長

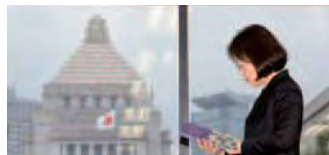
森田 倫子 H1入館(II種)

- Career
 - H 1.10~ 専門資料部科学技術資料課
 - H 4. 4~ 図書部図書整理課
分類科係長(H84~)
主簿第二係長(H9.12~)
 - H11. 4~ 調査及び立法審査局農林環境課
 - H19. 7~ 出向(衆議院調査局)
調査及び立法審査局国会レファレンス課
課長補佐
 - H22. 4~ 同 文部科学技術課科学技術室長
 - H25. 4~ 同 経済産業調査室付主任調査員
 - H26. 4~ 同 農林環境課長
 - H28. 4~ 同 国会レファレンス課長
- Profile
学生時代の専攻 / 生物化学
趣味 / バンダガーターデニング。
永遠の初心者ですが緑も花もごみます。
仕事の必需品 / 大型英語辞書が好きです。今はネットもありますが、特に翻訳をするときは、より良い訳文を考えるために引き合います。

国立国会図書館職員に求められる「専門性」

国立国会図書館ではあらゆる分野の資料・情報を扱っています。幅広い領域にわたる国政課題の分析には、科学技術や統計を含む様々な知識が必要とされます。また、社会科学、人文科学、自然科学の様々なテーマについてレファレンス回答や資料の紹介を行うためには、各分野の専門知識を持つことが求められます。近年は、電子情報サービスにも注力しているため、ITに関する知識を生かす場合も増えています。

そのため、国立国会図書館では、どのような分野であっても、大学等で得た専門性を生かす機会を得られます。一方で、担当業務に合わせて新たな専門性を高める必要もあるので、研修に参加したり自主的な勉強会を開催したりするなど、知識の習得に積極的な職員も多くなります。



国会調査室を望んで

キャリアを振り返って

大学では法学部だったこともあり、国会議員向けの調査サービスに漠然と憧れて志望しました。採用後は様々な業務を経験しましたが、今振り返ると、どの部署も、当館ならではのやりがいに満ちていたと感じます。なかでも印象に残っているのは、国会議員向けの調査と、アジア情報室の仕事です。

国会議員向けの調査サービス

日本外交や国際政治に関する調査を5年ほど担当しました。当時は、9.11同時多発テロの直後で、アフガニスタンなど、いわゆる「破たん国家」の再建が、我が国の外交課題の一つになっていました。再建支援策のヒントを得るため、国際機関のレポートや、欧米各国の事例を紹介した資料を読み込む日々は、苦勞の連続でした。それでも、私の執筆した「レファレンス」(2006年7月及び2007年3月刊)の記事を読んだ議員から、さらに詳しい説明を求められた時は、ほっとしたような、誇らしいような気持ちになったことを覚えています。その後、参議院事務局に出向して、国際問題に関する調査を担当しました。そこで気づいたのは、同じ調査業務でも持ち味が違うということです。当館は、納本制度で収集した図書や雑誌を駆使する文献調査が得意です。その力は特に、外国の法制度の調査や、政策課題の歴史的経緯をたどる際に発揮されます。一方、委員会にも陪席する参議院の調査室には、議員の問題意識に即して、きめ細かい対応ができる長所があると感じました。外から入るを見てはじめて気づくことも多く、出向は貴重な経験でした。また、これをきっかけに、立法補佐機関が互いの強みを活かし、全体としてサービス向上が図れるとよいと考えるようになりました。



アジア情報研修での挨拶

アジア情報室の連携事業

アジア情報室は、アジア各国の現地語資料を扱っています。課長として目指したのは、単に資料の利用を増やすことだけでなく、関係機関と連携して、国全体としてのアジア情報の整備・発信に貢献することでした。アジアを扱う図書館は、当館のほか、東洋学で世界的に有名な東洋文庫、開発途上国研究に定評のあるアジア経済研究所などがあります。出向時の発想にも通じますが、これらの図書館と強みを活かしながら関係が築ければ、利用者に役立つはずだと考えました。

当館が主催する「アジア情報関係懇話会」では、調査活動への支援、多文化サービスの充実など、各図書館の共通課題を取り上げて、意見交換を行いました。成果の一つであるアジア経済研究所との研修の共同企画は、多くの図書館司書や研究者から好評を得ました。これも価値あるサービスを提供できたという、手応えを感じた瞬間でした。

メッセージ

情報環境は日々進化します。今後、当館に期待されるサービスはますます高度化、多様化するでしょう。当館の職員には、こうした変化に対応し続ける心構えが欠かせません。また、アンテナを高く張り、広い視野で仕事を見つめ直すことも必要になってきます。国会の図書館であり、国の中央図書館でもある当館には、ここにしかない創造的な仕事があります。挑戦する気持ちにあふれる受験生の方をお待ちしています。

利用者サービス部政治史料課 課長

塚田 洋 H2入館(II種)

- Career
 - H 2. 4~ 総務部厚生課
 - H 4. 4~ 専門資料部参考課
 - H 9. 4~ 総務部企画課
 - H10. 4~ 調査及び立法審査局外交防衛課
 - H14. 8~ 出向(参議院事務局)
 - H16. 7~ 調査及び立法審査局外交防衛課
 - H19. 4~ 同 調査企画課 課長補佐
 - H21. 4~ 同 国会分館 課長補佐
 - H23. 4~ 総務部支分部書館、協力課 課長補佐
 - H24. 4~ 関西館付主任司書
 - H25. 4~ 同 アジア情報課
 - H27. 4~ 利用者サービス部政治史料課長
- Profile
学生時代の専攻 / 法学
趣味 / テニス、スポーツとしてはもちろんですが、仲間との輪が広がるのが魅力です。
仕事の必需品 / 筆記具は鉛筆です。政治家の日記や手紙など、貴重な資料を扱うので、万が一も資料を傷めないよう気を遣います。

出向・人事交流

外部機関での経験により視野を広げ、国立国会図書館での業務に役立てることを目的として、国や地方公共団体等の諸機関と出向・人事交流を行っています。また、実務研修として、公共図書館との研修交流もを行っています。

<近年の主な出向先・実務研修員派遣先>

会計検査院	衆議院調査局
衆議院法制局	参議院法制局
工業所有権情報・研修館	宮城県図書館
福島県立図書館	京都府立図書館
奈良県立図書館情報館	



政治史料課事務室の書架にて